# 学園祭中止
## オンラインでも行わず

学園祭実行委員会は、11月に開催予定だった学園祭の開催をすべて中止することを8月31日に発表した。昨今の新型コロナウイルスの感染拡大状況を鑑み、キャンパスでの開催は、参加者の安全と健康を十分に確保できない点、多くの団体が活動を再開できていない点の2点から、中止の判断がされた。

学園祭実行委員会はこれまで、参加者の安全と健康を確保しながら学園祭を開催する方法を模索しており、その中で学園祭のオンライン化についても検討を行ったとしている。しかし、現状として多くの課外自主活動団体が活動を停止しているという状況が続いていることから、例年の学園祭のように学生文化の発信を行うことが困難との判断に至った。

加えて、学園祭の意義を達成する下支えとなる学生文化の発信や非日常の創造などについては、オンライン開催を行ったとしても完全には担保できない。これらを担保できないことは、学園祭の独自性を欠くことにつながると認識することとなった。

学園祭の中止について学園祭実行委員長の寺田龍平さん（スポ健4）は「多くの団体が思うように活動できていない中で、せめて学園祭は行いたいと思っていたはずだ。コロナ禍とは言え、学園祭という場を作り出せなかったことは申し訳ない。まずは団体の日常の活動が取り戻されることを願う」と語った。（恒成）

昨年の BKC 祭典の様子

学園祭実行委員長の寺田さん

# 一部で対面授業実施へ
## BCPに応じて変化

秋学期

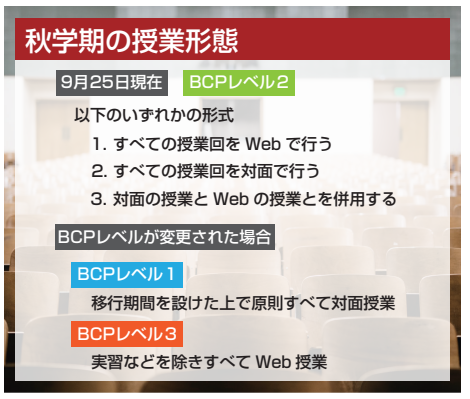
9月28日から始まる秋学期の授業は、すべての授業回を対面で行う形式のほか、Web上で行う形式、授業回や受講生によって対面とWebを併用する形式のいずれかの形式で行われる。

6月22日より「新型コロナウイルス感染拡大に対する立命館大学の行動指針（BCP）」がレベル2であり、それに沿ったものである。

対面授業では窓の開放による換気や飛沫防止用の遮蔽板設置のほか、マスクやフェイスシールド着用などの対策がなされる。また、受講人数によって一定の間隔を空けて着席することが困難な場合は対面での出席者の調整がされることもあるとしている。対面授業を行う科目でも教室での出席が困難な場合、一部を除いて動画配信などでWeb上での受講も可能となる。

成績については春学期と同様、定期試験に代わる評価方法に変更される。学部によっては、本来定期試験が行われる予定であった期間に、一部の科目で教室での試験を行う場合があるとしている。

なお、秋学期途中でBCPがレベル3となった場合は教室での実習が必要なものなどを除き、すべての科目がWeb授業となる。また、レベル1となった場合は十分な移行期間を設けた上ですべての科目が原則Web上での配信も行われる。




# 映像・情理OIC移転へ
## 2024年度

本学は8月25日、映像学部と情報理工学部をそれぞれ衣笠キャンパス、びわこ・くさつキャンパス（BKC）から、大阪いばらきキャンパス（OIC）へ移転することを発表した。移転は2024年4月。学部とあわせて映像研究科と情報理工学研究科も移転する。

本学における学部のキャンパス移転は、2015年にOICが開学した際に、政策科学部と経営学部がそれぞれ衣笠キャンパス、BKCから移転して以来となる。

移転にともない、本学はOICについて「ソーシャルコネクティッド・キャンパス」を目指すとしている。

発表によれば「社会課題を解決するための実証実験や価値創造が行われる、社会とのつながりと拡がりをもったダイナミックなプラットフォームへと改革を進める」としている。

映像学部は、2007年、総合大学の特色ある芸術系学部として開設。アート・ビジネス・テクノロジーの領域から映像の制作と研究にアプローチする学びを展開している。また、情報理工学部は、情報通信技術（ICT）に関わる広範な領域を網羅する情報系学部として、2004年に開設。IoTやAIなど、最先端のICTを学ぶことができる学部として注目を集めている。

本学は両学部ともにデジタルテクノロジーを基盤としているため、ウィズコロナ、ポストコロナの時代に向けた教育への取り組みと親和性が高いとしている。また、政府が提唱する科学技術政策であるSociety 5.0時代において、さまざまな社会課題の解決に向けた貢献が期待される学問分野だと位置づけている。

移転の発表にあわせて株式会社NTTドコモ、西日本電信電話株式会社（NTT西日本）との連携協定を締結したことも発表された。教育や社会連携などの分野で協力し、共に社会共生価値の創出に貢献することが期待される。

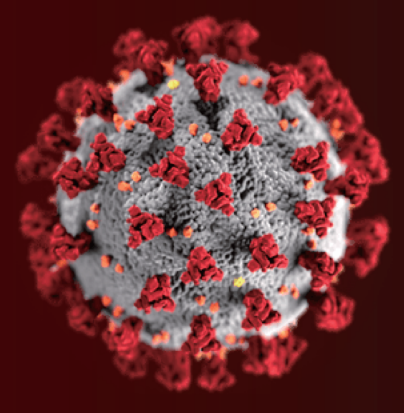
仲谷善雄総長は両学部の移転を受け「最新の映像表現と情報技術を融合させ、今まさに社会が求めている、新しい教育、大学の姿を創造していきたい」とコメントしている。（石井）

## キャンパス別学部構成
（2024.4～）

| | |
|---|---|
| 衣笠 | 文学部 |
| | 法学部 |
| | 国際関係学部 |
| | 産業社会学部 |
| | 映像学部 |
| BKC | 生命科学部 |
| | 経済学部 |
| | スポーツ健康科学部 |
| | 理工学部 |
| | 食マネジメント学部 |
| | 薬学部 |
| | 情報理工学部 |
| OIC | |
| | 経営学部 |
| | グローバル教養学部 |
| | 政策科学部 |
| | 映像学部 |
| | 総合心理学部 |
| | 情報理工学部 |

## 海神

先日、京都駅へ行ったとき、どうも見覚えのある顔が目に止まった。今までにZoomでしか顔を合わせたことがない同級生に似ていたのである。人違いであっては困ると思い、そのときは声をかけなかった。しかし後になって連絡をしてみると、私が京都駅で見かけたのは同級生本人だったらしい。声をかけていればよかったと少し後悔した▼このコラムを書きながら、この2カ月間を思い出してみる。初めての夏休み、自分のやりたいことが記されたメモを見返す。大学生になってからもう5カ月が経つのか、と「9」が大きく書かれたカレンダーを眺める。あれだけうるさく感じていた蝉の鳴き声はぱたりと止み、今ではスズムシやコオロギの音が耳に心地よい。道路の電光掲示板が「22度」を示す午後7時。残暑が続く中でも秋は徐々に近づいてきているのだろう▼秋学期、今までオンラインでしか話すことがなかった人と実際に会えるかもしれないのは純粋に楽しみである。名前は知っているし顔も分かるのに、いざ初めて顔を合わすとなると交わす言葉はやはり「初めまして」になるのだろうか。不思議な感覚だ▼どれくらいの身長なのだろう、相手は自分を見たときにどんな反応をするのだろうか、会ったらまずは何から話そうか―すっかり秋めいた夜、楽しいことが頭を支配する。その一方で、長い間知らぬふりを続けてきた「早起き」ともそろそろ本格的に向き合わなければと焦る夜。（坂口）



特集　COVID-19
新型コロナウイルス
その影響は―
立命館大学新聞社 RITSUMEIKAN UNIV PRESS
ホームページで配信中
www.ritsumeikanunivpress.com



立命館大学新聞

発行所　立命館大学新聞社
発行人　石井　優輝
〒603-8577 京都市北区等持院北町
56-1 立命館大学学生会館 BOX316
075-465-8253（内線 2160）
〒525-8577 滋賀県草津市野路東 1-1-1
立命館大学セントラルアーク 4F
〒567-8570 大阪府茨木市岩倉町 2-150
立命館大学 A 棟北ウィング（AN）
3F Student Lounge 内
email:info@ritsumeikanunivpress.com

立命館大学新聞社
RITSUMEIKAN UNIV PRESS
www.ritsumeikanunivpress.com
立命館大学新聞社　検索
TEL
075-465-8253
MAIL
info@ritsumeikanunivpress.com
Twitter
@Rits_Press
Facebook
www.facebook.com/ritspress/


9月号

本号の紙面


学園祭　全日程が中止…1面
希望授業形態分かれる…2面
女子陸上無観客大会…3面
ミスキャンパス立命館…4面

## 社説

# 誰もが満足できる秋学期に

本学は秋学期の授業形態の方針を、主に対面授業とＷｅｂ授業を併用することに決定した。一部対面授業再開という形で、春学期とは異なった新しい日常が始まろうとしている。

しかし、すべて学生が併用を望んでいるわけではない。本紙が８月に行った調査では、秋学期に最も希望する授業形態を「全面対面」「対面とＷｅｂの併用」「全面Ｗｅｂ」で尋ねたところ、回答はそれぞれ全体の約３分の１ずつであった。また、それぞれの授業形態に対する学生の受容度も６割ずつと一定数の拒否感もあった。これらを踏まえた時、大学と学生に求められる行動とは何か。それは大学と学生の双方が秋学期への満足度を高める働きかけをすることである。

自分が望む形式でないことに不満を述べたり、大学側の対応を批判したりしても前には進まない。すでに決まったことをいかに良くしていくかに注力するべきだ。少しでも大学側に改善を求めるならば、学生が学部事務室や担当教員に知らせる勇気を持つことだ。慣れない授業形態で大学側も学生の声を必要としているはずだ。

大学側としては、春学期に指摘されたＷｅｂ授業の反省点を改善することで、学生が混乱しないような授業にすることが可能である。教員にはレジュメ提供だけの授業をなくしたり、学生へのフィードバックを増やしたりすることが求められる。

また、さまざまな事情により対面授業に参加できない学生が、成績上不利益を被ることがないように考慮するべきだ。もちろん、初めてキャンパスに通うこととなる１回生への配慮も忘れてはならない。

秋学期を大学、学生双方の力や意見によってより良いものに、より満足のいくものにすることが強く求められる。学生は自らの意見を積極的に伝え、大学側はそれを取り入れてほしい。

# Ｗｅｂ・併用・対面で 学生の好み分かれる 本紙調査

本紙が秋学期の開講に向け、本学学部生約３万２００人を対象とした調査で「秋学期の授業について最も希望する形態」を尋ねたところ、「全面Ｗｅｂ授業」と答えた学生が34・４％、「Ｗｅｂ授業と対面授業の併用」が35・１％、「全面対面」が26・７％、「その他（自由記述）」が３・８％となり結果が拮抗する形となった。「その他」では、「併用以外（全面Ｗｅｂあるいは全面対面授業）」という回答が目立ち、「どの形態でもよい」などの記述もあった。

学年ごとの結果を見ると、全面Ｗｅｂ授業希望が多いのが２回生・４回生・５回生以上、併用希望が多いのが３回生、全面対面授業希望が多いのが１回生という結果となった。

所属キャンパス別では、衣笠キャンパスに所属する学生は併用の授業を希望する割合が高く、びわこ・くさつキャンパスに所属する学生は全面Ｗｅｂ授業を希望する割合が高い傾向が見られた。

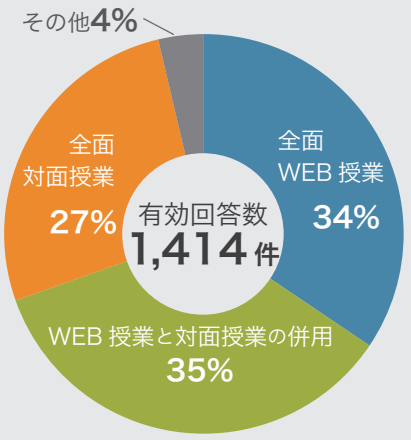
「秋学期が全面Ｗｅｂ授業となれば受け入れられますか」の問いに対しては全体で「はい」が60・５％、「いいえ」が39・５％となった。「秋学期がＷｅｂ授業と対面授業の併用となれば受け入れられますか」の問いは「はい」が62・７％、「いいえ」が37・３％という結果に。「秋学期が全面対面授業となれば受け入れられますか」の問いは「はい」が57・８％、「いいえ」が42・２％という結果になった。

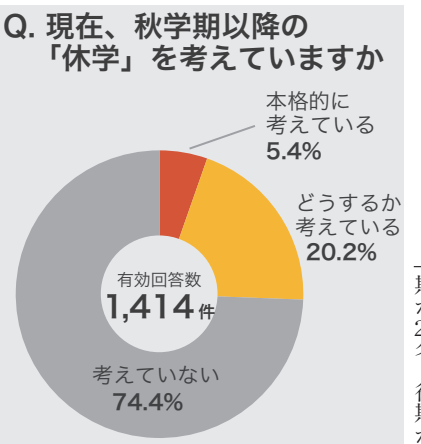
「現在、秋学期以降の休学を考えていますか」の問いに対しては、全体で「本格的に考えている」が５・４％、「どうするか考えている」が20・２％、「考えていない」が74・４％という結果となった。

また「現在、退学を考えていますか」の問いに対しては、全体で「本格的に考えている」が２・３％、「どうするか考えている」が７・５％、「考えていない」が90・２％という結果に。

学年別の結果からは、低回生ほど休学や退学を考えている学生が多いことが明らかになった。休学・退学を考える理由を尋ねると、授業の質や形態に対する不満が最も多く見られた。続いて、学費についての不満と、大学生活を送る意味を問うものも多く見られた。また課題の負担や精神的な苦痛を訴える声も上がり、その他に、家庭の経済状況や将来への不安についての意見も寄せられた。

（堀ノ内）




【秋学期の授業に向けたアンケート】
立命館大学生を対象に8月5日～18日にかけてGoogleフォームを用いた調査を実施。有効回答数1414件（学生比4.4%）。
詳報は本紙ホームページで公開中。

# 食マネジメント研究科開設
## 高度マネジメント人材の育成目指す

２０２１年４月、びわこ・くさつキャンパスに新たに「食マネジメント研究科」が誕生する。マネジメントを中心に食を複合的に研究する日本初の研究科だ。「食に対する経営・イノベーション」「食を通した多文化共生の地域社会づくり」「食を通した福祉・健康コーディネーション」という、実社会における食に関わる３つの社会的課題への挑戦を軸とする。入学定員は博士課程前期が20名、後期が３名。それぞれ食マネジメント修士、博士の学位が取得できる。

同研究科の構想は２０１８年４月の食マネジメント学部開設当初からすでにあり、同年７月頃から本格的な議論を始めたという。

食マネジメント学部副学部長の田中浩子教授は、同研究科の強みを「高度マネジメント人材の育成」と話す。「課題に対する仮説に基づいて実際に行動できるような人材を生み出せることが特徴だ」と笑顔を見せた。

食に対して問題意識をもつ学生はもちろん、食べることが好き、食に興味があるという学生にもぜひ来てほしいという。

田中教授は「食に関する『当たり前』を疑う視点を大切に。常にものごとの裏側、反対側を考えられるようになってほしい」と学生にメッセージを送るとともに「『食を複合的に学ぶなら日本の立命館だ』と世界から言われるような研究科にしたい」と意気込んだ。（坂口）

オンラインで取材に応じる田中教授

## 自治委員選挙の概要

**選挙日程**

| | |
|---|---|
| 公示 | 9月28日 |
| 立候補 | 10月12日～18日 |
| 投票 | 11月9日～13日 |
| 結果公示 | 11月30日～12月4日 |

**投票方法**

Webサイト「RISING-FDC」
RAINBOW IDを入力後、
ボタン操作で投票

KEY WORD：自治委員

自治委員はグローバル教養学部を除く各学部自治会の構成員として、学部の自治を担う。
選出された自治委員は学部生の意見を集約し、大学側に伝える活動をする。

# 今年は電子投票 ＋
# 11月に自治委員選挙が開催

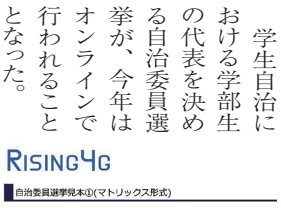
学生自治における学部生の代表を決める自治委員選挙が、今年はオンラインで行われることとなった。

投票は「RISING-FDC」という大学がアンケートを管理する際に使用するＷｅｂサイトで実施される。学生はRAINBOW IDを入力した後、ボタン操作のみで投票が可能となる。候補者の立候補は10月12日より開始、投票期間は11月９日から13日までで、結果の公示は11月30日となる予定だ。選挙管理委員長の井上雅貴さん（法３）は、学生に向けて「学生自治への参加のハードルを下げられるように努めたい」と語った。

副委員長の大野新さん（文３）は「電子投票になることで無効票が発生しにくい形となり、より学生の意見が反映されるのではないか」と電子選挙のメリットを語る。また、過年度の投票率は、２０１８年度が33・９％、２０１９年度が27・８％と年々減少傾向にあるが、今回の電子選挙では、どの学生でも気軽に投票できることから投票率の改善が期待される。

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、初めて行われることになった電子選挙だが、電子選挙そのものの構想は、約２年前からあった。副委員長の藤本和希さん（心理３）は「今の状況がチャンスとなって、実現できるようになったことは嬉しい」と述べた。

（堀ノ内）



電子投票のイメージ

たくさんの人に伝えたい感動や興奮。
共有したい情報や想い。
それらを表現できるのはたった一枚の紙の上。
限られた範囲で何ができるか。
記事の構成、写真のアングル、
紙面のデザイン、見出しの付け方。
伝えたいから、全てにこだわる。
こだわるから、良いものが生まれる。
私たちにしかできないことが、ここにある。

立命館大学新聞社
RITSUMEIKAN UNIV PRESS
www.ritsumeikanunivpress.com
075-465-8253
info@ritsumeikanunivpress.com
@Rits_Press
www.facebook.com/ritspress/

京都・衣笠：学生会館 3F BOX316
滋賀・BKC：セントラルアーク 4F アクト・オフィス内
大阪・OIC ：A 棟北ウィング 3F Student Lounge 内

# トラックでの強さ光る 女子陸上競技部 無観客の2大会出場

新型コロナウイルス終息の兆しが見えない中、陸上界では大会再開の動きが出始めている。本学女子陸上競技部主将の田中佑美選手（経済4）への取材から、本学選手が出場した2大会を振り返る。（川村、石渡）

## チャレンジャーとして存在感残す

8月23日、国立競技場（東京都新宿区）でセイコーゴールデングランプリ陸上が開催された。本大会は100mハードル日本記録保持者の寺田明日香選手をはじめ、日本のトップレベルの選手が参加する大会である。100mハードルに出場した本学の田中選手は13秒27で4位という結果を残した。本大会のスタート時の心境を田中選手は「チャレンジャーとして思い切って走ることが出来ると考えていた」と振り返る。

なお、本大会は新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、無観客での開催となった。しかし、テレビやインターネットでの生中継が行われた。さらに、会場には全国から選抜された高校生が出場するドリームレーンが設けられ、その関係者のモニターを通した応援や、事前に募集された選手への応援メッセージの掲載などがされた。

全日本インカレでは2位となった田中選手（『月刊陸上競技』提供）

田中選手は大会を振り返り「昨年は全体で7位、日本人選手の中で2位という結果だったが、今年の日本人選手のみの大会で4位と順位を落としてしまった」と悔しさをにじませた。しかし、走りについては「今シーズンはコロナの影響もあり、あまり満足のいくレースが出来ていなかったぶん、今大会レベルの高い選手が出場する環境で、少しは自分の納得のいく走りができた。今後につながる良いレースになったと感じている」と真摯な姿勢を見せた。

## トラック得点2連覇も総合4位

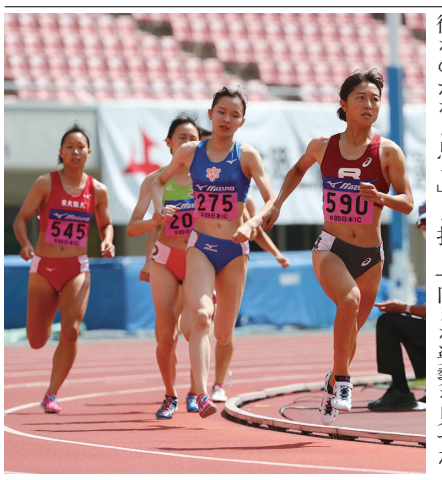
デンカビックスワンスタジアム（新潟県新潟市）で9月11日から13日、日本学生陸上競技対校選手権大会（全日本インカレ）が開催された。本学からは男女合わせて38人が出場した。

本大会では種目ごとの個人成績に加え、チームごとの総合成績も争われる。本学女子陸上競技部は大学別の女子トラック得点で1位を獲得。女子総合得点でも4位に入った。

本学女子陸上競技部にとっては悔しさの残る大会となった。100mハードルには、昨年同種目を制した田中選手が出場した。レース序盤では先頭に立ったが、ゴール直前でかわされ13秒39の2位に終わった。「追われるなかで力んでしまった。（後半は）相手が伸びたというよりも自分が落ちてしまった」といい、0・03秒の僅差で優勝を逃す結果となった。

また800mで3連覇を狙った塩見綾乃選手（経済3）は、レースを通して先頭を争ったが惜しくも2位。壺岐あいこ選手（スポ健2）も100mで2位、200mで3位と健闘したが、総合優勝というチームの目標は果たすことができなかった。

田中選手は大会について「目標は達成できなかったが、昨年に引き続きトラック得点での1位は死守できた。立命館大学に高いレベルの競技力があることの象徴なのかなと思う」と振り返った。また、自身の今後については「日本学生記録を狙っていきたい」と、前向きな姿勢を見せた。



全日本インカレ予選、先頭を争う塩見選手（『月刊陸上競技』提供）

## #コロナに負けない 学生の合言葉

新型コロナ感染拡大防止キャッチコピー募集

8月7日より、本学広報課は新型コロナウイルス感染拡大防止キャッチコピーの募集を行っている。広報課公式Twitterをフォローし、考案したキャッチコピーに「#コロナに負けない学生の合言葉」を付けてツイートすることで応募完了となる。大学の関係者のみならず、Twitterアカウントを持つ人なら誰でも参加できる。募集は9月27日まで。

受賞作品はポスターや広報課公式SNSのメインビジュアルなど、感染拡大防止を喚起するために活用される。また、最優秀賞3作品には米10kg、優秀賞30作品にはマスクもしくはハンドジェルが進呈される。

本学では以前から、新型コロナウイルスに関する特設サイトを作ったり、感染予防策を紹介する動画をYouTubeで配信したりするなど、感染拡大防止の取り組みを行っていた。しかし、新型コロナウイルスの影響が日に日に深刻化する中で、学生が気軽に参加でき、またそれを通じて学生同士が互いに感染拡大防止に取り組めるような企画が必要なのではないか、と感じ始めたのが、本企画発案のきっかけであった。

広報課は「自身を守るとともに、周りの方を守ることにもつながるキャッチコピーをぜひ応募してほしい。気軽に参加してもらい、こういった取り組みに関心を持ってもらえると嬉しい」とコメントした。（波多野）

## BKCスポーツ健康コモンズ 無料オンラインレッスン開講

BKCスポーツ健康コモンズは6月15日からヨガや、自重トレーニングなどのボディメイクなど、自宅でできるオンラインレッスンを開始した。

同施設は、BKCにある体育施設で、ジムやプールを学生や教職員に貸し出している。今回のレッスンは、同施設が昨今の学生が抱えるストレスや運動不足などの問題を懸念して始められた。レッスンにはZoomが用いられ、同施設のオンライン会員に登録することで、専用のURLが送られる。内容は家でも場所を取らず、特別な器具を使わないなど初心者向けではあるものの、アクティブなものからリラックスできるものまで多様に用意されている。

オンラインレッスンの様子

同施設を運営するHOS株式会社の濱野領二さんは「自宅でも体を動かせるプログラムを提供することで、生活の中に運動を取り入れ、健康にもう一度目を向けてほしい」と語る。その手軽さから従来の利用者のみならず他キャンパスの学生や他府県の人々にも利用されているという。

レッスンは、9月30日まで開催期間が延長した。濱野さんは「学生の皆さんと一緒に汗を流してストレスを発散し、健康を目指していきたい」と笑みをこぼした。

# 立命館首位をキープ 関西学生野球 秋季リーグ

関西学生野球連盟の秋季リーグ戦が9月5日に開幕した。エース右腕の有村大誠（文4）や、2回生時からクリーンナップを打つ主将の橋本和樹（産社4）、強肩強打の捕手・築枝（ささえだ）裕貴（文4）らを擁する本学硬式野球部は第1節の関西学院大戦、第3節の京都大戦をともに全勝した。現在、関西大と並び首位を守っている本学は、昨春ぶりの優勝に期待がかかる。

今季は新型コロナウイルスの影響により春季リーグ戦が中止され、新チームで迎える最初のリーグ戦となった。7月には活動が停止する加盟校もあったが、6校すべてが参加している。

リーグの運営は従来の2戦先勝方式から、2回戦総当たりの勝率制に変更された。勝率が同率の場合は、優勝決定戦が行われる。また、リーグ創設以来初のタイブレーク制も導入され、延長10回から最大15回までは無死一、二塁から試合が再開される。

球場での観戦は部員の親、祖父母、きょうだいに限定されている。感染拡大防止のため、観戦者には検温やマスク着用、アルコール消毒などが行われている。

## 秋季リーグ順位表

| | 立命 | 関大 | 近大 | 同大 | 関学 | 京大 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 立命館 | | | | | ○6-5○11-0 ○7-3○3-2x | |
| 1 関大 | | | ○5-3 ○7-3 | | ○7-4 ○10-1 | |
| 3 近大 | | | | ●2-3○4⑩1 ○5-3○ 7-5 | | |
| 4 同志社 | | ●3-5○3-2 ●3-7●3-5 | | | | |
| 5 関学 | ●5-6 ●3-7 | | ●1⑩4 ● 5-7 | | | |
| 5 京大 | ●0-11●4-7 ●2-3x | ●1-10 | | | | |

9月25日現在

# ミスキャンパス立命館２０２０ 活動本格化

８月３日、ミスキャンパス立命館２０２０のファイナリストが発表された。ファイナリストたちは京都の文化体験やＳＮＳを通じたファンとの交流など、本格的な活動を始めている。

ファイナリストに選出されたのは、追田菜々花さん（スポ健３）、佐藤華純さん（経済４）、谷口萌衣子さん（文４）、清水あゆみさん（政策２）、齋藤佳穂さん（経済２）、仲間由依さん（情理２）の６名である。

今年で10周年を迎えるミスキャンパス立命館。活動実施に伴い、ミスキャンパス立命館２０２０代表の八須元遼太郎さん（経済３）と副代表の甲斐和志さん（経済３）に話を聞いた。

今年はコロナ禍で例年のセミファイナルイベントが中止となり、候補者が自身の魅力を伝える場が少なくなっているという。このような状況をから、同団体はファンと候補者が同じ時間を共有できるライブ配信など、オンラインでの活動に力を入れている。オンラインでの活動に関して甲斐さんは「今年は学生を意識した活動をするために Instagram や動画配信を利用している」と語る。

加えて今年度特有の活動として、リゼクリニックが主催する「MISS MR CAMPUS CONTEST ２０２０」とのコラボ企画にも参加している。昨年までは独自性を意識し、外部のイベントに積極的ではなかったが、アピールの場を創出することを目的として取り組んでいるという。

また京都に根付いた大学だからこそできる舞妓体験や華道体験なども積極的に行っている。八須元さんは「候補者自身がただ京都という地で学ぶだけでなく、伝統文化に触れたり同じ大学生に対して体験したことを伝えたりする機会にしたい」と熱心に語った。

今後は、候補者の Twitter と Instagram アカウントを用いて、動画での文化体験の発信も予定されている。また、グランプリ選考の１つである文化発信投票についても、ミスキャンパス立命館公式ＳＮＳアカウントにて行われる予定だ。

八須元さんは学生に対して「これから候補者が活動の中で外見も内面も成長していく姿を見守ってほしい。また、ミスキャンパス立命館の活動を通じて京都について新しい発見をしていもらえれば嬉しい」と熱く語った。（川村、佐野）

左上から時計回りに追田菜々花さん、佐藤華純さん、谷口萌衣子さん、清水あゆみさん、齋藤佳穂さん、仲間由依さん

ファイナリストが行う、京都ならではの文化体験の様子

# 京都市成人式 感染対策のうえ開催予定

京都市は今年度の成人式「令和３年京都市はたちを祝う記念式典」を例年通り、成人の日である２０２１年１月11日に行うと発表した。会場を２か所に分けるほか、消毒液の設置や参加者のマスク着用の呼びかけなど、新型コロナウイルス感染拡大防止策を講じた上での開催となる。

例年はみやこめっせ（京都市左京区）で開催され、午前・午後の部に分かれておよそ８０００人が参加していたが、今年度は新たにロームシアター京都（京都市左京区）を会場に追加した。参加者を分散させるため、式典回数を増やすことも検討している。

加えて、消毒液の設置やマスク着用の呼びかけなど、参加者が安心して参加できる環境を整えることを開催の前提としている。そのため感染拡大状況などに応じて上記を変更すること、また開催を中止する可能性もあるとしている。

今年度の成人式について、全国では、静岡市が密を避けるため屋外で開催することを決定したり、横浜市がオンライン上での開催を企画したりするなど、自治体によって対応が異なっている。

京都市の子ども若者未来部育成推進課は「開催時期の状況に応じた万全の安全対策を講じるとともに、出来る限り密集を回避するよう参加者の誘導等、実施方法を工夫し、開催いたします」としている。（波多野）

# 学内の農園で地産地消 地域との交流の機会にも

衣笠キャンパス・京都衣笠体育館の西側に「きぬがさ農園」と名づけられた畑と花壇がある。旧聖ヨゼフ修道院跡地で今年５月から野菜と花が育てられている。阿部桃子さん（国関２）が代表を務める農業園芸サークル「きぬがさ農園Ｋｒｅｉｓ」のメンバーや本学の教職員、校友、地域住民によって運営されている。

農園運営の起点となるのは、持続可能な開発目標（ＳＤＧｓ）の実践だ。ＳＤＧｓの目標12「持続可能な消費生産形態を確保する」などについて、腐葉土の活用や無農薬での生産、地域での消費を通して実現を目指す。

これらの活動は、阿部さんの提案をきっかけに始まった。昨年10月、衣笠キャンパスの落ち葉がゴミとして捨てられていることを知り、活用できる方法はないかと衣笠キャンパス地域連携課の窓口に相談した。これを受け地域連携課では、落ち葉を腐葉土に変え、キャンパスの植栽や京北地域での野菜作りに役立てる活動を行うことになった。キャンパス内の落ち葉を集め、簡易堆肥器に入れて繰り返しかき混ぜることで腐葉土を作っている。

農園の運営は今年度から始まり、５月上旬には種まきや苗植えを行った。キャンパスへの入構が禁止されていたため、Ｋｒｅｉｓのメンバーは参加できなかったが、教職員などが協力して畑の管理を続けた。地域の住民に野菜作りについてアドバイスを受けたり、親子連れと一緒に活動したりすることもあったという。

８月に収穫したオクラやカボチャは、立命館生活協同組合（生協）と相談し、食堂で提供された。地域連携課の田中真也さんは「土づくりから農作業、消費までのサイクルを通して究極の地産地消を目指したい」と語る。秋学期もカボチャを提供する予定で「ぜひ食べてみてほしい」と呼びかけた。（鈴木）

きぬがさ農園で野菜を育てる様子

# Webオープンキャンパス開催 魅力発信へ

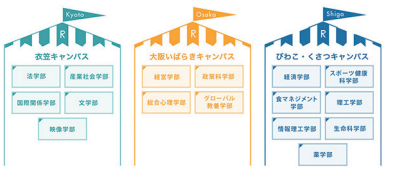
新型コロナウイルスの影響を受け、本学はオープンキャンパスに代わるものをＷｅｂ上で実施している。特設サイトを８月３日に開設し、学部や入試情報に関する動画を公開した。また、ＳＮＳを活用した情報発信も行っている。

動画を公開し、大学生活や入試情報について発信するのは初めての取り組みだ。動画は学部での学びを伝えることを軸に制作された。動画では学部ごとに教員が説明する形をとっており、対面のオープンキャンパスでの体験に近づけた内容となっている。

また、近畿圏外からの進学率の高さによる多様性や、学生へのサポート体制の充実など本学の魅力を発信している。学部生が出演する動画もあり、普段の生活や課外自主活動、学習方法のアドバイスについて伝えている。そして、本学の伊坂忠夫副総長が高校生の質問に答えるなど、例年にない取り組みを行なっている。

本学入試広報課の冨田耕平課長は「動画配信は、本当に情報を届けたい相手に情報が届いているかどうかの判断が難しい」と語る。

今後は、より受験生のニーズに対応できるように、Ｗｅｂオープンキャンパスの動画公開を継続する。それに加え、本学の魅力や入試情報の発信を対面で実施できるように調整していく見込みだ。（三井、鈴木）




Web オープンキャンパスの特設サイト


## 情報・写真求ム！

RITSUMEIKAN UNIV. PRESS
infoPost

立命館大学新聞社では情報・写真の
提供フォーム「infoPost」を開設しました。
ニュースになりそうな情報や写真を広く求めています。
いただいた情報や写真は、社内で検討した上で、
紙面や WEB 版ニュースに掲載したり、
取材のきっかけにしたりさせていただきます。

立命館大学新聞社
RITSUMEIKAN UNIV PRESS
www.ritsumeikanunivpress.com
info@ritsumeikanunivpress.com
@Rits_Press
www.facebook.com/ritspress/
立命館大学新聞社　検索